



難波宮造営以前の素弁八葉蓮華文軒丸瓦

難波宮跡出土 7世紀前葉 大阪市教育委員会蔵

難波宮の造営は、645年に始まる大化改新を契機として開始されます。それ以前の大阪には、難波津という港や四天王寺があり、大陸文化と接する場所でもありました。本資料は、のちに前期難波宮朝堂院ができるエリアで見つかりました。難波宮造営よりも前の7世紀前葉のもので、文様の型には四天王寺創建期の瓦と同じ范を用いています。一方、前期難波宮にあたる時期に大規模な宮殿の規模に見合った量の瓦は出土していないため、宮殿自体は板葺であったと推定されています。



阿波人形 蘇我入鹿

明治35(1902)年 大阪歴史博物館蔵

人形浄瑠璃における王朝物の代表作「妹背山婦女庭訓」は、中臣鎌足による蘇我入鹿討伐(乙巳の変)をベースに、三輪山の宇環説話、采女の衣懸柳、春日神鹿殺し、十三鐘など大和の伝説を各所に織りこんで作られました。このなかで、謀反人たる入鹿は、国崩しの悪役に用いられる目と眉のほかに口が開くよう作られた、文楽の「口あき文七」にあたる角目の首で演じられます。本品は阿波の人形師・人形忠(1840~1912)の首です。



白鞠・燻鞠及び扇蒔絵鞠台

江戸時代 大阪歴史博物館蔵

『日本書紀』皇極3(644)年正月条には、中大兄皇子と中臣鎌足が「打鞠」の場であ会ったとみえます。打鞠については、蹴鞠説とポロのような球技を指す説がありますが、脱げた中大兄の脊を鎌足が拾っていることから、蹴鞠説が有力です。本資料は観賞用の飾り鞠で、白鞠と燻鞠の珍しい取りあわせによります。鞠台には銀細工を施し、十骨の鞠扇や桐を蒔絵であらわします。鞠台の中央には「日の丸扇子」の文様も施されることから、佐竹家伝来の調度品ではないかと考えられます。



大阪市文化財協会

古墳時代の足、発見!

平野区亀井北遺跡では古墳時代後期(6世紀前半)の水田畦畔に埋められた状態で完全な形に近い木製の足が見つかりました。足とは膝上まで浸かるようなぬかるんだ水田で、肥料を踏み込んで土と混ぜ合わせる役割と水田の表面を均す役割を併せもつ農具です。足に結んだ縄を引っ張り上げて半歩進んだところで踏み込み、これを左右交互に繰り返します。足のすぐ上からは口縁の一部を半円状に打ち欠いた須恵器の杯蓋(写真矢印)も出土しましたので、水田農耕にまつわる何らかの祭祀行為が行われていたと考えられます。

大阪市文化財協会 学芸員 別所秀高



水田畦畔から出土した足(現存長87cm、幅50cm)

※今回紹介した資料は、9月4日(水)~10月28日(月)、大阪歴史博物館で開催の特集展示「新発見! なにわの考古学2024」にて展示します。開館時間/9:30から17:00まで ※入館は閉館の30分前まで。休館日/火曜日(祝日の場合は翌日) 最新情報はホームページにてご確認ください。

住所 〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-6-41 TEL 06-6943-6833 FAX 06-6920-2272

ホームページ 大阪市文化財協会: <https://www.occpa.or.jp/> 大阪歴史博物館: <https://www.osakamushis.jp/>

アクセス 大阪歴史博物館: ●Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅 ②号・⑨号出口 ●大阪シティバス「馬場町」バス停前

大阪市立の博物館・美術館・動物園 **Osaka Museums** <https://museums.ocm.osaka>

大阪歴史博物館 大阪城天守閣 大阪市立自然史博物館 大阪市立美術館 大阪市立東洋陶磁美術館

大阪市文化財協会 大阪市立科学館 天王寺動物園 大阪中之島美術館 大阪くらしの今昔館